

痛みセンターを中心とした慢性疼痛診療システムの均てん化と  
診療データベースの活用による医療向上を目指す研究

研究分担者 天谷 文昌 京都府立医科大学大学院医学研究科 教授

**研究要旨**

慢性疼痛は器質的な要因と心理・社会的な要因が複合的に関わるため従来の縦割り型診療では改善させられないケースも多い。京都府立医科大学集学的痛みセンターにおいて治療を行っている慢性疼痛患者について、多職種カンファレンスを1回/月の頻度で実施し、診療の充実を図った。

**A. 研究目的**

慢性疼痛は器質的な要因と心理・社会的な要因が複合的に関わるため従来の縦割り型診療では改善させられないケースも多い。本研究事業ではこれまで1) 本邦における慢性疼痛の現状の疫学調査（医療経済的な面も含める）や海外での慢性疼痛診療体制やその成果の調査、2) 本邦の状況に適した慢性疼痛の集学的診療体制の構築とその診療体制を地域に根ざすための地域ネットワークモデル事業、3) 慢性疼痛に対する治療の適正化を進めるためのガイドラインの作成、4) 国民や医療者に慢性疼痛を学習・理解してもらい治療の窓口や対処の仕方などが判るようにするための広報などに取り組むなど、基盤となる事業を進めてきた。さらに、慢性疼痛医療を担う運動器、神経系、精神心理の専門家に加えて疫学研究者を集結させて、慢性疼痛の診断や治療に関するエビデンスを示すこと、そしてより本邦に適した痛み診療システムを構築していく。具体的には集学的痛みセンターの構築（新たな痛みセンターの立ち上げ、今まで出来ている痛みセンターの成績の解析と充実化、新たな前向き研究の実施）を行っていく。

**B. 研究方法**

京都府立医科大学集学的痛みセンターにおいて治療を行っている慢性疼痛患者について、多職種カンファレンスを1回/月の頻度で実施した。

（倫理面への配慮）

特記すべき事項なし

**C. 研究結果**

多職種カンファレンスにより、さまざまな疼痛アプローチが提案され、慢性痛患者の診療の充実を図ると共に、痛みセンターにおける診療が充実した。

**D. 考察**

痛みセンターにおける活動をさらに充実させ、対外的に発信することで、地域の慢性痛患者の治療センターとしての役割を果たす必要がある。

**E. 結論**

痛みセンターにおける多職種カンファレンスを定期開催し、診療の充実を図った。

**F. 健康危険情報**

総括研究報告書にまとめて記載

**G. 研究発表**

**1. 論文発表**

- 1) Yoshii R, Sawa T, Kawajiri H, Amaya F, Tanaka KA, Ogawa S. A comparison of the ClotPro system with rotational thromboelastometry in cardiac surgery: a prospective observational study. Sci Rep. 2022 14:17269.
- 2) Shiraishi M, Sowa Y, Kodama T, Numajiri T, Taguchi T, Amaya F. Localization of

Chronic Pain in Postmastectomy Patients:  
A Prospective Comparison Between  
Patients With and Without Breast  
Reconstruction. Ann Plast Surg. 2022; 88:  
490-495.

- 3) 永井義浩, 丹波和奈, 新田義宏, 奥村能城, 山本千明, 宮地充, 家原知子, 天谷文昌. ケミカルコーピングが疑われた小児がん患者の疼痛管理 1 症例. ペインクリニック. 43; 673-677. 2022
- 4) 谷口彩乃, 天谷文昌. 神経障害性疼痛のメカニズムと治療における最近のトピックス. 整形・災害外科.65; 715-723, 2022
- 5) 松岡豊, 天谷文昌. デュロキセチン内服中に褐色細胞腫との鑑別を要する高血圧が生じた 1 症例. 日本ペインクリニック学会誌.293; 27-30, 2022

#### H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

1. 特許取得  
なし
2. 実用新案登録  
なし
3. その他  
なし